

矢田健爾の通過した時代と足跡 80才の検証 (於湘南高校歴史館)

曾祖父 矢田平九郎 深川にて米問屋を経営、財を成す 祖父 矢田千九郎 骨董商
父 矢田修 岡山出身 岡山師範卒 津山で教師となるが 画家を志望して33歳で上京、
模写を得意とする。現在模写作品は広島 海の見える杜美術館に収蔵(琳派と南蛮屏
風)
母 矢田ヤエ 尾道出身
姉弟6人

- 1933年 東京下谷七軒町で生まれる。
- 1937年 尾道幼稚園に通う
- 1939年 藤沢に転居
- 1941年 対英米宣戦布告
- 1943年 父親被災 焼夷弾による全身やけど(出先の岡山空襲)
- 1944年 尾道に縁故疎開
- 1945年 尾道で終戦
- 1946年 藤沢本町小学校卒業
- 1947年 横浜PXで父がアメリカ兵向けの肖像画の店を開く
- 1951年 高校2年から久保守アトリエに通う 岸田劉生の自画像を模写
- 1952年 湘南高校グラウンドのポップラ雪景を描く、60年間美術部の友人建築家渡部氏保管
" 湘南高校卒業
- 1953年 東京芸術大学入学 横浜領事館でフランス語を習う
- 1954年 横浜の焼けビル(山下町海岸通り付近)を描く 評論家植村鷹千代 焼けビルを評価
- 1955年 油絵科林教室 横浜でアルバイト 新教授フランス19世紀絵画史を受講
- 1957年 芸大卒業 専攻科入学(現大学院)フォションのパンチュール・フランセーズ通読
" 現代美術研究所助手(植村鷹千代所長)
- 1959年 油絵専攻科修了 造形心理学副手(桜林教授)
- 1960年 日本美術会に入会 安保闘争に参加 品川区立第三小学校教諭
- 1963年 森川澄子と結婚 練馬桜台に部屋を借りる 妻澄子 西武パリオフィスに勤務
- 1964年 (31歳) 渡欧 ロシア船で横浜から北海道ナホトカまで、シベリア鉄道で
イルクーツク・モスクワを經由 1週間でパリに到着
" パリ国立美術学校版画科入学 カミー・ロベール教授に師事(ビュラン)
版画家駒井哲郎が学んだ所
- 1965年 長男誕生 美術学校ブリアンション教授のアトリエに合格
- 1966年 バカンス・ドライブ旅行 スペイン・ポルトガル リスボンで南蛮屏風に出会う
- 1967年 ル・サロン展サロンナショナル展アンデパンダン展出品メキシコのシケイロスに会う ルーブル
美術館にてミレー、ルイ・ルナンを模写 ルーブルにて喜多院職人尽くし展
" デンマークで農場経営の姉夫妻を頼って、ひと夏ボーゲンセで働いて過ごす
- 1968年 いわゆる5月革命(学生がパリを占拠)に参加してシルクスクリーン・ポスター制作
- 1969年 帰国 帰途 香港・カンボジャ・アンコールワット見学
" 新宿椿近代画廊 帰国記念個展
- 1970年 日本アンデパンダン展出品 和光学園講師 多摩丘陵の自然を描く

- // 多摩丘陵の自然を守る会会員
 1972年 平和展出品(佐藤忠良代表)母子像の連作
 1073年 板橋区在住 学童保育父母会会長 学年延長に取り組む 学童絵巻き制作
 武井武雄、熊谷守一と交流
 1975年 あかつき画廊個展(お茶の水)
 1977年 ギャラリーキャパ個展(丸の内)
 1977年 正則学院非常勤講師
 1978年 離婚 千葉滞在制作 藤沢に戻る
 1979年 銀座 兜屋個展
 1980年 藤沢さいか屋個展 ウィーン世界クラフト会議出席 父矢田修74才没
 1981年 広島そごう個展(平山郁夫先生紹介)
 1982年 ヨーロッパ・トルコ・エジプト写生旅行 東海大学講師(吉川逸治先生紹介)
 1983年 横浜高島屋個展 九州ドライブ写生旅行 宮崎にてクラフト3人展(絵皿など)
 1984年 ヨーロッパ写生旅行 平塚フクスケ・アートサロン個展
 1985年 日仏現代美術展 佳作入選 (有田の職人を描く)染付を試みる
 // ヨーロッパ写生旅行 中国旅行 景德鎮、南昌で八大山人美術館見学
 // 北京榮宝齋にて水墨画道具、材料一式購入
 1986年 鎌倉一翠堂にて2人展 中国旅行桂林 西安
 1987年 東京セントラル絵画館(平山先生紹介)広島そごう個展
 // 中国、黄山写生旅行 景德鎮 南昌八大山人美術館再訪
 1988年 大阪そごう個展 ギリシャとエーゲ海旅行 石版画制作 山梨清春芸術村滞在制作 サロン
 ナショナル バブレ会長と出会う
 1989年 湘南画廊個展 フランス・サロンナショナル出品 パリ・グランパレで展示を手伝う
 // 北海道ドライブ写生旅行 藤沢美術家協会会員
 1990年 小田急ハルク個展 藤沢さいか屋個展
 1991年 胃の全摘手術 佐藤久美子と出会う 矢田修模写展(王舎城)
 1992年 フランス・ソシエテナショナル会員 県展・I・M・A展、客員会員
 1993年 東京セントラル絵画館 水墨画個展
 1994年 平塚画廊個展 桂林旅行
 1995年 中国 敦煌旅行 母 矢田ヤエ没(85才)
 1996年 銀座松坂屋個展 フランス・マルメゾン・ダヴィド、ナポレオンアルプス越え ドイツ・ローテンブ
 ルグ 市長飲み干し図 取材旅行
 1997年 猪苗代湖地ビール館模写完成祝い旅行 山住都立大総長、横須賀市長澤田氏らが参加
 1998年 佐藤久美子文化賞受賞記念ヨーロッパ旅行 ボルドー・サンシルク・ラ・ポピー
 韓国交流美術展出品(黎明会)朴会長と出会う韓国旅行 北京招待 川井別荘
 1999年 銀座松坂屋個展 作品集刊行
 2000年 湘南画廊個展 パリ・サロンナショナル展出品 ソウル国際交流展出品
 // カンボジャ・アンコールワット招待旅行 水戸・密蔵院
 2001年 銀座松坂屋個展 フランス、グレー、ポンタベン、ロックロナン、オンフルール
 2002年 フランス美しき村 コンク、オータン、ヴェズレー オートワール取材旅行
 2003年 銀座松坂屋個展 アルザス、コルマル、チュレンヌ、コロンジユ・ラルージュ旅行
 2005年 銀座松坂屋個展

2006年 フランス写生旅行 パリ中心
2007年 銀座松坂屋個展
2008年 湘南の同級生 藤間雄三氏の注文で茅ヶ崎柳島風景連作 サロンナショナル出品
2009年 山梨清春芸術村滞在制作 奈良月ヶ瀬写生旅行
2010年 //
2011年 吉井画廊個展 東日本大震災、被災地慰問と写生旅行
// 横浜赤レンガ館 第59回平和展 実行委員長
2013年 平和展出品 昇仙峡写生旅行参加
2014年 湘南高校歴史館 柳島風景展示

現在 サロンナショナル会員 平和美術家会議会員 日本美術会会員 藤沢美術家協会会員

○過ぎて見れば短い80年だった。日本の激動の時代に自由と文化を求めて、自分らしい良い絵を描くことが念願であった。それはほぼ達成できたと思う。

画家になろうとすれば万里の道を行き万巻の書を読むと云う諺があるが、これを地で行った。長期の方針を立て、名画を鑑賞し、仕事の数をこなす以外に道は無い。美術史を学べば時代の要求から名画が誕生していることを知る。良い絵を描きたいなら、時代の要求を反映させることだと思う。自分の内的な要求が時代の要求と一致すること。当然現代とは何か、鋭く正確につかむ必要がある。もちろん造形的要素としてヴァール、構築性、ハーモニーは重要。子育ての時期は学童保育、自然を守る運動と制作が連動。その延長上に再度ピストン留学を試み、美しきフランスの村シリーズを描いた。それが終了する時期に茅ヶ崎・柳島からの依頼であった。吉井画廊個展に2年を費やして最後の花道を歩む積りが、東日本大震災と時期が重なった。気を取り直して、少しずつ水墨画などを描いている昨今である。若い時に見た傑作を思い出して制作への情熱をかき立てている。

フランスで見た忘れ得ない名作はヴェズレーの素朴な柱頭彫刻、神秘の粉ひき、シャンテイーの豪華なる祈禱書、バイユーの王女マチルダのタペストリー、アルザスで見たマルチン・シヨンガウワーの祭壇画、薔薇のマリア、西洋初期木版画、サンジェルマン・アンレイのボツシュ風な手品師、ルーブル美術館では何と言ってもアビニヨンのピエタ。圧巻、フランス19世紀の作品群は激動の社会から生み出されたものである。スペインのゴヤの5月17日、ウイーンのブリューゲルの冬の狩人、近代ではピカソの青の時代の作品、ゴッホの馬鈴薯を食う人々、レジエの建築する労働者など、素朴で東洋的な響きのある庶民を表した深い作品に心惹かれる。

中国の敦煌榆林窟の壁画、清明上河図、八大山人の水墨画、魯迅の版画運動作品。日本では彦根屏風、鉄斎、浦上玉堂、竹久夢二などが好きだ。西洋も東洋も芸術的価値から云えば、どちらも同じで優劣は無い。版画も好きで何枚かはコレクションしている。長谷川潔、ドーミエ、など、その延長上に硯、墨がある。

書棚から、フィンケルシュタイン 美術はどう生活を表したか、ハーバートリード 芸術とは何か、嘉門安雄 西洋美術史要説、吉川逸治 西洋美術史、青木茂 世界版画史、エドガー・スノー 中国の赤い星、アグネス・スメドレー 偉大なる道、毛沢東選集、レーニン全集、マルクス選集、小説紅岩、柳宗悦選集、旗田巍 朝鮮史、山住正巳 日本教育小史、箕田源次郎 美術の心を訪ねて、岡本唐貴、松山文雄、日本プロレタリア美術史を紹介する。

故平山郁夫、山住正巳、植村鷹千代、鈴木進、吉川逸治、湘南の田中正道、奥野、文学史の北村、諸先生にはお世話になった。もちろん湘南高校の同窓生の支持があった。美術部の伝統を確認し発展を願う。戦後民主主義といわれる立場から歴史のバトンを渡したい。

2014年1月11日